

16年1月
 第252号

地域で育つ新成人

～ 放課後子ども教室10周年～

「仲間」や父母等集い祝う

10年前、わずか10人足らずで始まった「子どもサンシン教室」ですが、現在さらにエイサーや習字、空手、ダンスなど5教室に広がり、教室は常時70人以上の子ども達が集まっています。新成人のメンバーはその草分け的存在。中学・高校生になっても地域活動に参加するなど「ふる里」を共有する仲間です。

成人の日を前にした9日、現在の小さな教室仲間や先輩、父母等多数が集まり、久しぶりの再会とお互いの成長、絆の大切さを確かめました。会場では新成人が小学生だった頃からの活動をスライドショーで紹介、笑いと歓声にあふれ和気あいあいの一時でした。



抱負を語る新成人。写真右から大城佑也さん、銘苅悠人さん、平安山健人さん、名渡山夏希さん

ふれあいバスツアー

1月20日（水）

【集合時間】午前9時30分

【集合場所】公民館

※上地域から参加の方は途中乗車
 地点として宮城善一さん方集合

（9時15分頃）

【目的地】本部町伊豆見でミカン狩り、昼食後辺野古訪問 帰途

「春のバスツアー」断念

前回号でもお知らせしましたが、予想以上のバス代高騰で今年度の開催を見送ることになりました。評議員会では、長年続いてきた恒例行事でもあり、4月開催の総会に向けた

名護市許田か沖繩市「道の駅」で買い物を楽しむ予定です。

次年度行事計画でも改めて議論を継続することになっています。ご理解よろしくお願いします。



サンシン合奏で幕開け

瑞慶覧先生も駆けつけ祝福

＝新成人を祝う集い＝

お年寄りに元気おくる
 放課後子ども教室
 くくる 美ら園に年始訪問



9日、地域の介護施設年始会に招かれエイサー、空手、ダンス、サンシン教室の子ども達それぞれが披露し喜ばれました。写真。くくる「ちゅら園」には、開所以来毎毎欠かさずの訪問。婦人サークルが加わる時もあります。今年教室10周年の節目でもあり、子ども達だけ

ゆくのぞき ～ときどき閑話～

年間約1億8千万円。市民がほとんど議論すらしていない「那覇湾管理組合」の浦添市の負担金額である。平成14年、西海岸開発と那覇港湾の再編整理を目指して県、那覇市との3者で設立し、以来13年間、浦添市も毎年この「分担金」を払い続けている。だが4年前、港湾道路の一部が橋梁化した段階で組合事業の柱だった「ハブ港湾」構想もすでに破綻しているのが実態。にも関わらず計画だけは既成事実を残し、挙げ句の果て3者3様の主張で対立状態（4日付け沖縄タイムス）。報道では新年度予算絡みで3月議会ではようやく是非論が出るかも知れないと言う。市民感覚では「巨額な負担金」であり、当然だろう。西海岸は自然海浜の新たな価値創造の可能性もある。区民が心から慶びを感じられる新年になって欲しい！

に。ファイナレは瑞慶覧長仁先生夫妻の地謡でカチャーシー。施設入居者も踊りに加わるなど賑わいました

